

さらに前進するまちづくりのために

あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は、伊万里市が誕生して60年、人生に例えると還暦という節目の年を迎えます。

昭和29年4月に、伊万里湾の総合開発をめざし2町7村が合併して誕生した本市は、炭鉱閉山などによる地域経済の衰退と人口の減少を経験しましたが、今日では、伊万里湾に造成された大規模な工業団地に多くの企業が立地するとともに、黒川町七ツ島地区においては港湾施設の整備が進み、成長著しい東アジアをはじめとする対岸諸国とのコンテナ貨物による貿易が活発に行われるなど、伊万里湾を中心とする中核的な機能を備えた都市として発展しています。

時代の変遷を経て着実な成長を遂げてきた本市を真に自立した地域社会へと高め、未来へと引き継いでいくため、平成26年は、今日の伊万里を築いた先人の足跡に感謝し、市民の皆様と市制60周年を祝うとともに、本年を新たなスタートとして、諸事業の実現に向け全力で走り続けたいと考えています。

まず、原子力災害を想定した防災対策につきましては、昨年11月に福島第一原子力発電所から30キロ圏内の福島県南相馬市を訪問し、今なお、復興が進まない厳しい実情を目の当たりにし、防災対策の重大さへの思いを一層強くしたところであり、市民の皆様の安全と安心を確保するため、原子力発電所の立地自治体並みの『事前了解』を含む安全協定の締結について、電力会社へ強く働きかけるとともに、万一、原子力災害や自然災害等が発生した場合に主要な情報伝達手段となる防災行政無線をはじめ、避難経路となる国道や県道、市道の整備を進めてまいります。

都市基盤の整備につきましては、福岡都市圏との移動時間を大きく短縮する西九州自動車道が、26年度中に、唐津市から南波多町の谷口インターチェンジ（仮称）までの区間と、山代インターチェンジ（仮称）から松浦市まで

輝く未来に向け、



平成26年 年頭のごあいさつ

伊万里市長 塚部 芳和

の区間が開通し、高速性や定時性の確保とともに産業の活性化や地域間交流の拡大が期待されることから、さらなる市内区間の早期整備に向け事業を促進するとともに、西九州自動車道や長崎自動車道へのアクセス道路となる国道204号バイパスや都市計画道路大坪木須線の整備を促進し市街地における交通の円滑化を図ります。

また、伊万里港につきましては、重点港湾と日本海側拠点港として施設整備や機能充実を図るとともに、ポートセールスの展開による荷主の確保と新規コンテナ航路の開設等により経済交流のさらなる拡大に努めます。また、本市臨海部における最後の開発適地である浦ノ崎地区の産業用地としての開発に向けた土地利用計画の策定について佐賀県と連携し取り組んでまいります。

産業の振興につきましては、西九州自動車道の開通を見据え、伊万里焼や伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドの販路拡大をはじめ、近隣都市や旅行会社と連携した観光ルートの開発や観光資源の商品化など福岡都市圏を対象とした観光戦略を展開し、交流人口の増加を図ります。また、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）や減反政策の転換等への対応として、農地の集約化等によるコスト競争力の強化や農家が農産物の加工や流通にも関わる6次産業化などへの取り組みを促進します。

このほか、県西部地区4市5町により整備する広域ごみ処理施設の来年12月の完成に向け着実に事業を推進するとともに、大川内町の散弾銃射撃場の環境対策を進めるほか、小中学校の規模適正化の取り組みや、南波多小・中学校と滝野小・中学校における小中一貫教育の導入など、教育効果を高めるための教育環境の充実に努めてまいります。

このような事業の積極的な展開により、私は、これまで築き上げてきた礎を基に、『活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち 伊万里』の実現に向け、全力を傾注する決意でありますので、市民の皆様のお一層のご協力を心からお願いいたします。